

# 「未来学」の過去・現在・未来

日 時 : 2013 年 3 月 12 日 (火) 13 時 00 分 - 17 時 00 分  
会 場 : 日本大学 経済学部 7 号館 2 階講堂 (最寄り駅 : JR 水道橋駅)  
主 催 : 横幹技術協議会、横幹連合  
参 加 費 : 横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料。  
当日資料代 : 1,000 円

【上記以外】一般 2,000 円 (資料代込)

参加申込 : 【事前登録】オンライン申込 ([http://www.trasti.jp/forum/forum37\\_kyg.html](http://www.trasti.jp/forum/forum37_kyg.html))

## 【企画趣旨】

今から半世紀前の 1960 年代後半、日本には夢と希望が満ち溢れていた。大阪万博に象徴されるように、誰もが未来を語り、「未来学」や「未来予測」が社会現象となった。

あれから 50 年、21 世紀初頭の日本がめざすべき「未来」が見えていない。もはや米国が万能教師である時代は終わり、中国やインドなどとも異なる未来社会モデルを、日本自身が創り出す時である。

1968 年の設立当初から学際的な志向をしてきた日本未来学会の歩みと「未来学の今日的意義」を明らかにした上で、確実なひとつの未来としての「人口減少&少子高齢社会」をどうとらえ、如何に対処すべきかについての未来学的アプローチ手法を紹介する。

## 【プログラム】

		(敬称略)
13:00-13:10	開会にあたって	総合司会:和田 雄志 (日本未来学会 事務局長、未来工学研究所理事) 桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)
13:10-14:10	◆ 基調講演 半世紀前の未来学ブームと未来学の今日的意義 ～来たるべき新世界へ、未来学の果たす役割～	林 光 (創造工房ナレッジファクトリー 代表、日本未来学会理事)
14:10-15:00	◆ 各論その 1 人口波動で未来を読む ～人口減少要因への学際的アプローチ～	古田 隆彦 (現代社会研究所 所長、日本未来学会会員)
15:00-15:50	◆ 各論その 2 超高齢化社会の近未来シナリオ ～大規模団地再生から日本の未来が見える～	和田 雄志 (日本未来学会 事務局長、未来工学研究所理事)
15:50-16:00	休 憩	
16:00-16:40	◆ 質疑応答	司会 : 和田 雄志 講師の皆様
16:40-16:50	閉会にあたって	田村 義保 (横幹連合 副会長)

# 「未来学」の過去・現在・未来

2013 年 3 月 12 日（火）13 時 00 分－17 時 00 分

## 【 講 演 要 旨 】

### 基調 講演

#### 「半世紀前の未来学ブームと未来学の今日的意義」

～来たるべき新世界へ、未来学の果たす役割～

◆ 林 光（創造工房ナレッジファクトリー 代表、日本未来学会理事）

半世紀前の 60 年代後半、多くの学問を横断的にとらえて「学際的」な学問としての「未来学」が提唱された。時代は高度経済成長期の真ただ中、まさに「バラ色の未来」が社会的に認知されていた時代だった。それから半世紀以上がたち、日本社会は、目指すべき未来を探しながら、世界をリードする立場へと進んだ。いまこそ、まさに次の時代の「未来」を学際的に考えるべき時代であるものの、その発見には多くの困難が立ちふさがっている。モノ社会の飽和、サービス社会の成熟化、人口の高齢と国家目標の喪失など、様々な問題を踏まえつつ、多角的なアプローチによりこれからの未来学の意味と意義を考えてみる。

### 各論 その1

#### 「人口波動で未来を読む」～人口減少要因への学際的アプローチ～

◆ 古田 隆彦（現代社会研究所 所長、日本未来学会会員）

人口減少の背景を、未来学の基本的な研究方法「学際的アプローチ（Interdisciplinary Approach）」で解明していくと、超長期的な循環論である「人口波動」に辿りつく。人口波動とは、マルサスの人口循環論を基礎に、生物学や生態学の「Carrying Capacity（人口容量）」論や「修正ロジスティック曲線」、あるいは文化人類学や民俗学の「人口抑制装置」論などを組み合わせた理論である。この視点に立つと、文化と文明のあやなす、人類史の壮大な推移が浮上し、さらにその延長線上には、来るべき次期文明の様相が見えてくる。

### 各論 その2

#### 「超高齢化社会の近未来シナリオ」～大規模団地再生から日本の未来が見える～

◆ 和田 雄志（日本未来学会 事務局長、未来工学研究所理事）

高度経済成長期に全国に建設された大規模団地やニュータウンが、建物・施設の老朽化と住民の高齢化を同時に迎えている。このまま放置すればスラム化や団地のゴーストタウン化が進行し、都市コミュニティの崩壊をも招きかねない。しかし、一方では、一部の若者の間では、レトロでモダンな「団地暮らし」が静かなブームとなっており、ハードとソフトの両面から団地再生・活性化に取り組む動きが全国で出ている。「団地の未来」は日本の未来を先取りするものであり、ひいては世界に向けて成熟社会の先進モデルとなりうる。

### 総合 質疑

司会：和田 雄志、講演者の皆様

## <第 37 回横幹技術フォーラム 申込書>

1.お名前： \_\_\_\_\_ 2.ご所属： \_\_\_\_\_

3.電子メール： \_\_\_\_\_ 4.TEL： \_\_\_\_\_

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： \_\_\_\_\_ 学会)  
(c) 学生 (d) その他

### 交通案内

<http://www.eco.nihon-u.ac.jp/about/maps/>

日本大学 経済学部 7号館 2階講堂

最寄駅：JR、地下鉄 水道橋駅 ・地下鉄 神保町駅

